

## 平成26年度 県立土浦第一高等学校（全日制）自己評価表

No. 1

目指す学校像	豊かな人間性の涵養と人格の形成を図り、次世代をリードする高い知性とたくましい心身を有し、社会の発展に貢献し得る人間の育成を目指す。教職員の共通理解の下、生徒一人一人のより高いレベルでの進路実現を目指し、地域社会の期待に応える進路指導を実践する。			
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況	
<p>高い目標に向けて主体的な学習を継続させること、キャリア教育を充実させ、将来について真剣に考える機会を数多く提供すること等に各学年等が創意工夫し、前向きに取り組んだ結果、大きな成果を上げることができた。より高いレベルで生徒が自ら学び、授業を重視する姿勢を身につけるためには、前年度と比較し、目に見える形で成果が上がる、指導法改善に向けた取り組みを充実させる必要がある。</p> <p>部活動、学校行事等に積極的に参加し、様々な体験を積むことで、多くの生徒は人間として大きく成長することができた。生徒理解を更に深め、生徒一人一人に個別に対応した指導も求められる。服装指導等で規範意識を身につけるための指導を更に充実させる必要がある。</p>	<p>教科の指導力をより向上させ、自主的・積極的な学習態度を育成する。</p>	<p>①授業に対する意欲と理解を高め、質の高い授業を展開する。 ②自ら学ぶ意欲を高めるとともに、効果的な学習活動を支援する。 ③指導法の研究を通年でを行い、授業改善、指導力向上を図る。</p>	A	
	<p>未来を見つめ、真摯な自己との向き合いを通して、自分の進路を自ら切り開いていく態度を育成する。</p>	<p>④進路についての情報収集、将来の生き方、職業選択に関わる進路研究を積極的に行う態度を育成するとともに、各生徒への具体的な支援を行う。 ⑤個別面談等を通して生徒の自己理解を促し、高い目設定と自己実現を目指すための継続的な努力ができるように支援する。</p>	A	
	<p>基本的な生活習慣の確立に努めると共に、学校行事や部活動等への積極的な参加を促し、豊かな人間性の涵養に努める。</p>	<p>⑥個別面談・教育相談を充実させ、生徒の悩みや課題の解決に向け支援する。 ⑦様々な活動に積極的に参加させ、協働する態度や自ら考え、責任ある行動が取れる態度を養う。 ⑧自らの生活を自ら律することの出来る態度を育成する。</p>	B	
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
教務部	<p>質の高い授業を展開するための支援を充実させる。</p>	<p>授業時間の確保のため、授業補填率100%を継続させ、時間割を円滑に運営する。</p>	① A	<p>・授業力の向上と考査問題の精査を更に進めるため、校内での研修を充実させる。 ・SGHの本格始動に向けて、その取り組みを学校全体に有機的に組み込んでいく。 ・学校説明会などの広報活動を多方面で実施し、本校の教育活動を外部にアピールする。</p>
		<p>学校行事等を効果的・計画的に実施することで、生徒が意欲的に授業に取り組む環境をつくる。</p>	② A	
	<p>定期考査、及び、実力考査、校内模試の問題検討会を推進する。</p>	③ B		
	<p>授業の相互参観を定常化させ、授業改善、指導力向上を支援する。</p>	③ B		
	<p>新学習指導要領に基づいた新教育課程を円滑に実施する。</p>	<p>新教育課程を実施する中で課題を見つけ、次年度に向けての修正点を検討する。 観点別評価の取り組みを支援する。</p>	①②③ B ②③ B	
<p>広報活動の充実を通し、教育活動の活性化を図る。</p>	<p>SGHへの取組を踏まえた平成27年度教育課程を作成する。 中学生対象の学校説明会に加え、小学生とその保護者対象の学校説明会を実施する。 SGHの取組も含め、充実した教育活動の姿をホームページなどを通して公開する。</p>	①②③ A ⑦ A ⑦ B		
庶務部	<p>学校、家庭、地域社会との連携と協力体制の確立に努める。</p>	<p>各学年後援会の活性化と、連携・協体制の充実を努める。</p>	④ B	
		<p>各種PTA行事(後援会行事)への積極的な協力・参加を呼びかける。 PTA総会の出席者数の増加を図る。</p>	④⑧ A ④ A	
	<p>奨学制度の効果的活用を図る。</p>	<p>各種奨学金の情報提供に努め、生徒が有効活用できるようにする。</p>	④ A	
人権教育	<p>学校の実態を踏まえた人権教育の推進を図る。</p>	<p>人権感覚や人権意識をはぐくむ人権教育の実践、特に、人権教育の観点にたった道徳やHR活動の実践を支援する。</p>	⑦ B	
	<p>人権尊重の精神の涵養と民主的な人間関係を育成する。</p>	<p>教育活動全体を通して人権尊重の精神を養い、生徒に人権感覚や人権意識を育成するために職員研修を企画、実行する。 HR活動、生徒会活動、生徒が企画・運営する学校行事等における民主的な活動を支援する。</p>	⑦ A ⑦ B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
生徒指導部	基本的な生活習慣を確立させる。生徒自らが規律を守り、節度ある生活をしようとする態度を育成する。	挨拶の励行や制服の着こなし等の指導を通して規範意識の高揚に努める。 ⑧	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登下校時の自転車の乗り方等の指導を通して安全な通学を考えさせるとともに、地域の一人として安全・安心な社会づくりの重要性を認識させる。</li> <li>・「いじめ防止基本方針」に則り、いじめの未然防止及び早期発見・早期解消に努める。</li> <li>・日々の指導を通して、生徒の自律的態度及び創造的態度を確立する。</li> <li>・部活動や委員会活動の更なる活性化・充実化に努める。</li> </ul>
		交通ルールへの遵守を徹底させるとともに交通事故の防止に努める。 ⑧	B	
		登校時における昇降口での生活指導や校外での交通安全立哨指導等を全職員が分担して定期的実施する。 ⑧	A	
	生徒の実態をよく把握し、充実した学校生活を送れるように支援する。	携帯電話・スマートフォンやインターネットの適切な利用を指導する。 ⑧	B	
		マナーアップ運動等を推進する。 ⑧	A	
		生徒の実態を把握し、学年等との連携を密にする。 ⑥・⑧	B	
教育相談室	生徒の発達段階に応じた望ましい集団活動の意義の明確化と自発的な活動の充実を促す。	いじめに関するアンケート調査を年間3回実施等、本校のいじめ防止基本方針に基づき、いじめの早期発見、早期解消のために学校全体として一致協力して取り組む。 ⑥	A	
		生徒会を中心に、学校生活の改善・向上や充実を目指した生徒の主体的活動を支援する。 ⑦・⑧	B	
		各種委員会活動の活性化を図る。 ⑦	B	
	教育相談体制を確立する。	生徒自らが企画・運営する学校行事への支援を工夫し、生徒の発想や創意を活かす。 ⑦	A	
		運動部・文化部等の積極的・自主的活動を奨励するとともに、学習と両立させるようにする。 ⑦・⑧	A	
		教育相談室の広報につとめ、生徒や保護者が相談しやすい体制を整える。 ⑤⑥	B	
保健部	安全で衛生的な生活環境を整備する。	各学年・校務分掌等と連携し、学校への不応が見られる生徒の支援にあたる。 ⑥	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室を中心とした校内環境整備につとめる。</li> <li>・学校薬剤師と連携して環境衛生検査を実施し、校内生活環境の整備につとめる。</li> </ul>
		スクールカウンセラーの派遣に際し、面談希望者への対応、面談日時の調整、県への報告にあたる。 ⑥	A	
		教員のスキルアップを図るため、スクールカウンセラーを活用した研修会を開く。 ⑤⑥	B	
	生徒の健康管理を支援する。	生活環境を衛生的に保つため清掃計画を作成し、責任を持って分担区域の清掃にあたらせる。 ⑦⑧	B	
		校内の環境を安全・清潔に保つために定期的に安全点検を行い安心して生活できる環境を整える。 ⑦⑧	B	
		周辺住民も参加した避難訓練を実施し、地域と連携した形で学校の防災力の向上に努める。 ⑦	B	
進路指導部	学習指導を支援する。	検診機関等が行う活動の準備、実施、事後措置に対し協力、指導する。 ⑦	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学受験の情報収集のための図書の実態を更に進め、そのための環境整備に努める。</li> <li>・進学・教科指導のための教員の研修を一層充実させる。</li> <li>・本校の進路（進学）指導の課題とその解決について、職員の共通理解を図る。</li> </ul>
		自他の生命尊重を基盤とした健全な倫理観を育み、延いては将来の実りある自己実現に向け、性教育に関する講演会を実施する。 ⑧	A	
		効果的な個別指導を行うため、学年と共同で生徒の家庭学習実態を把握、担任を支援する。 ①②③	B	
	生徒が志高く、自らの進路希望を実現できるようにする。	生徒の進路希望に即した授業や考査のレベルを維持するため、教科担当が外部の研究会に積極的に参加するように促す。また教科内の作問などの検討を促す。 ③	A	
		将来の生き方や生活、進路や職業について考えさせる学年ごとの行事への積極的な支援をする。 ④⑤⑧	B	
		生徒が自分の将来をデザインするための資料や図書の充実を努める。 ④⑤	A	
適切な進路情報の提供に努め、生徒が自らの将来をデザインできるようにする。	進路情報交換会を開き、課題の発見とその解決に努め、教職員集団として共通理解を持った進路指導ができるようにする。そのため進路指導部内のシステム化を図り、学年との連携を密にする。 ②③⑤	B		
	生徒が志望校を考える資料として、進学要覧・合格体験記を作成し、生徒に配布する。 ④⑤	A		
	4月の学年後援会総会、7・12月の保護者面談の際、学年に応じた適切な進路情報を提供する。 ⑤	A		
図書部	授業の展開に対応した資料を充実させる。	必要に応じて進路通信を発行したり、外部からの資料を配付し、生徒と保護者が進路について共通の認識を持てるように支援する。 ⑤	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書委員のより積極的な活動を促し支援することで、図書館の利用促進を図る。</li> <li>・図書の効率的利用のため、蔵書整理を粘り強く継続し、効果的な配架をすすめる。</li> </ul>
		各教科を対象に随時購入希望図書の調査をし、蔵書の充実を図る。 ②③④	B	
		蔵書の効率的利用と図書館内の安全確保のため引き続き蔵書の整理を進める。 ②④⑦	A	
	読書・作品鑑賞等を通して教養を深め、豊かな人間性を養う。	来館した生徒の読書意欲を喚起するための情報発信や図書の配置の工夫を継続して行う。 ②⑦⑧	B	
		図書部・視聴覚室の美化に努め、利用マナーの遵守について指導する。 ②⑧	A	
		課外授業及び視聴覚教材を用いた授業の場として視聴覚室を開放する。 ①②	A	
授業及び自主学習の場として、利便性・快適性を高める。	図書部・視聴覚室の美化に努め、利用マナーの遵守について指導する。 ②⑧	A		
	課外授業及び視聴覚教材を用いた授業の場として視聴覚室を開放する。 ①②	A		
		生徒の自主学習を支援する場として、弾力的に図書館を開館する。 ②⑧	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題	
コンピュータ室	情報教育の環境を整備する。	情報セキュリティやウイルス対策といったネットワーク導入に付随する諸問題を検討・解決していけるようにする。突発的に起きるトラブル等に対しても迅速かつ柔軟に対応出来るような用意をしておく。 ②	B	B	・来年度以降の茨城県教育情報ネットワークの更新による、校内セキュリティ強化や情報資産の把握・確保の要請に対して迅速に対応できるようにする。
	情報モラルに関する意識を高める。	授業などで情報モラル教育を推進するための資料の提供を行う。現在の情報技術を取り巻く社会環境についての具体的事例やその対処法等についても紹介していくようにする。 ①②	B		
学習館	自習場所として活用する。	清掃時に限らず、清潔な環境を保つよう心がける。また整理整頓を怠らず、使いやすい環境を整える。 ②⑧	B	B	・館内の環境衛生基準の維持に努めるとともに、生徒自身が利用規程を遵守する指導を徹底したい。 ・館内が飲食禁止となっているため、前庭にベンチやテーブルの設置を検討したい。
	各部・各学年と連携し、学習館の利用を促進する。	年間の使用予定を把握調整し、学習館の利用を効率的に行う。 ②	A		
		各学年と連携し、課外等での利用を促進する。 ②	B		
		教務部、生徒指導部等と連携し、学習活動等に活用しやすい環境を整える。 ⑧	A		
第1学年	授業中心の学習スタイルを確立し、基礎学力の向上に努める。	自己の目標を設定し、積極的に学習する姿勢を養う。 ②⑤	A	A	・生徒が本来持つ力を十分に生かせる場を提供したい。 ・自己管理の力と習慣化・継続力の育成。一方でペースメーカーが必要な生徒には家庭との連絡を密にして、生活の管理に努め、個別指導を増やしたい。 ・たくましさを持つ生徒育成に努める。
		授業理解のために家庭学習の習慣を身に付けさせる。 ②③	B		
		学年、授業担当者間の連絡を密に取り、生徒の状況を的確に把握する。 ②⑥	A		
	学校行事や部活動に積極的に取り組ませ、視野の拡大を図る。	進路講演会などの行事を通して、適切な職業観を育成し、学習への動機付けとする。 ②④⑦	A		
		学業と諸活動の両立を図り、幅広い知識・教養と様々な経験を身に付けさせる。 ②⑦⑧	A		
		HR活動、部活動、委員会活動に積極的に参加させ、高い意識を持つリーダーを育成する。 ④⑤⑦⑧	A		
高校生としてふさわしい学習・生活習慣の育成に努力する。	企業訪問やOB・OG進路ガイダンスによって広い視野を養う。 ④⑦	A			
	入門合宿を実施することにより、高校生活へのスムーズな移行を支援する。 ①②⑤⑥⑦⑧	A			
	個別面談や生活実態調査を通して、生徒理解に努める。 ④⑤⑥	A			
	「道徳」の学習において、豊かな人間性を養い、高校生らしい学校生活を送らせる。 ⑦⑧	B			
第2学年	自律的な学習・生活習慣の確立に努める。	目標を設定し、自ら改善する姿勢を養う。 ①	A	A	・家庭学習時間の増加を促す。自己の振り返りを通し、より高い目標に向けた指導を実施する。 ・悩みを抱えている生徒が散見されるので、協力して支援する。
		主体的に学ぶ意義を知り、努力できる生徒を育成する。 ①②	B		
		自ら考え、行動できる生徒を育成する。 ②⑦	A		
	進路選択を意識し、向上心を持ち、学力向上に努力する。	進路の諸行事を通して自らの適性を考えさせる。 ④⑤	A		
		高い理想を持ち、進路希望実現に向けて日々の努力を継続させる。 ④⑦	B		
		授業を大切にし、授業中心の学習スタイルの深化を図る。 ①②	B		
諸行事を通して人間性を涵養する。	授業担当者間の連絡を密にし、面談により生徒の学習・生活面で支援する。 ③⑤⑥	A			
	行事を自主的に運営し、集団内でのリーダー的資質や生活・規範意識を高める。 ⑦⑧	A			
	部活動や諸行事への主体的な参加を促す。 ⑦	A			
第3学年	自主的主体的に考え、規律ある生活習慣を確立する。	学業と部活動、各種委員会活動とのバランスを意識させる。 ④⑦⑧	B	A	・年度前半において生徒の学習状況を見ると、まだ主体的に取り組めていない生徒がいる。早期に主体的な学習スタイルを身につけさせるのが大事である。 ・来年再受験する生徒のなかで精神面が弱者のケアをどうするか課題である。
		学校行事に主体的に参加し、広い視野を持ち問題意識の高いリーダーを育成する。 ⑦⑧	A		
		土浦一高生にふさわしい生活態度を身につけさせる。 ⑧	A		
	一高の伝統である「授業を大切に」を継承する。	効果的な授業のために予習復習を重視させる。 ①②③	A		
		毎日の計画的な学習を継続させる。 ①②③	B		
		安易に受験科目を絞ることなく、多科目をバランス良く積極的に学習させる。 ①④	A		
高い進学目標を掲げ、それを達成する。	面談を活用し、一人一人の抱える諸問題を早く解決する。 ⑤⑥	A			
	放課後の教室、土曜・長期休業の学習館開放を通して、自学自習を重視する。 ②	A			
	国公立大を中心に各自に合った志望校を幅広く検討し、難関大学への進学研究に努める。 ④⑤	A			
	後期個別試験迄しっかり受験する高い目的意識を確立させる。 ②	A			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評 価	次年度への主な課題
国語	基礎学力の確かな定着を図る。	年間の授業進度計画を生徒に配布し、予習・復習を進んで行うなど、目的意識を持って学習させる。①②	A	A ・学年間の情報交換をより綿密にすることで、大学入試に向けた年次ごとの効果的な指導計画を作成し、生徒の学力の伸長を図る。また、SGHとの連携した多彩な言語活動を実践し、生きる力に繋がる国語力を養成する。
	探求型の学習スタイルを目指し、自ら学ぶ力の育成を図る。	言語活動を積極的に取り入れ、全ての教科の基礎となる言語技術に関するメタ認知を高める。①②	A	
	指導力の向上を図る。	個々の国語力の伸長を目指して、教科書以外にも課題を精選して与え、自学自習の習慣をつける。①②	A	
		生徒のニーズに合わせた特別講座や、学力不振の生徒に補講を行い、幅広い層の学力の向上を図る。①②	A	
		教科横断的な協同学習や表現活動を取り入れることで、国語力を総合的に伸ばす。①②	B	
		単元ごとの授業内容や、毎回の考查問題の協議を行い、的確な学力評価を行う。③	A	
	考查や模擬試験等の結果の分析を授業計画にフィードバックし、効果的な授業を構築する。③	A		
	相互の授業見学を含む校内研修の実施や、校外研修等に参加するなど指導技術の向上に努める。③	B		
地歴	世界史の学習を通して、国際社会における日本人のあり方を学び、社会貢献できる生徒の育成を図る。	世界史の通史だけでなく、テーマ史的な観点からも歴史的事象を取り上げ、近現代世界に対する多角的で柔軟な捉え方を身に付けさせる。①②	A	A ・教材や授業展開を工夫し、地理歴史に関する思考力を養う。 ・科目相互の関連性を意識した授業により、世界や日本についての興味・関心を高め、理解を深めるようにする。
	我が国の歴史の展開を地理的条件や世界の歴史と関連付けて考察させるとともに歴史を追究する資質を養い、歴史的思考力を培う。	世界各地の文化とその成り立ちを学ぶことにより、我々と異なる文化や考え方を理解・尊重する態度を育成する。①②	B	
	現代世界で発生する種々の事象に対して、自ら考える姿勢を養うとともに地理的な見方・考え方の育成を図る。	世界史の基礎的な知識を身に付け、それをもとに自ら考える力を育成し、表現する力を養成する。①②	A	
		各時代の国際環境や地理的条件などと関連付け、世界の中の日本という視点で考察させる。①②③	A	
		地域社会の歴史と文化を扱うことにより、郷土に対する関心を高め、愛する心を育てる。①②③	B	
		適切な主題を設定し、自らの考えを論述する活動を通じて、歴史的な見方や考え方を身に付けさせる。①②	A	
公民	国際人としての自覚を養い、倫理の諸問題に着目しながら課題解決できる姿勢と能力を養う。	系統的な学習を通して基本的な知識の定着を図り、地誌的な学習を通して具体的に現代世界を興味・関心を持って眺める態度を養う。②③	A	A ・中学校での既習事項との関連性を意識し、理解を深めるような授業を展開する。 ・あるテーマについて考えさせ、発表や意見交換をする場を引き続き設定する。
	政治・経済・国際関係などについて客観的に理解し、関心を持って眺める態度を育成する。	授業進度の適切な時期を捉えて、調査や作業学習を体験することで地理的な技能を養う。②③	B	
		3年次では大学入試に対応した論理的な思考力や表現力を育成する。①②③	A	
数学	生徒の発達段階に応じた質の高い授業を展開する。	倫理で必要とされる基礎的知識を身に付け、それをもとに諸問題に対して自ら考える態度を育成する。①②③	A	A ・授業を中心とした学習計画や予習復習の学習習慣を更に徹底させる。 ・新学習指導要領のもとでの指導法の研究を進める。
		青年期における自己形成と人間としての在り方・生き方についての理解と思索を深めさせる。②④	B	
		民主主義の本質に関する理解を深め、現代社会における政治・経済・国際関係などについて理解させ、基礎的な知識を身に付けさせるとともに、それらについて主体的に捉え、考えさせる。①②③	A	
		綿密な授業計画表を作成し、進度計画表を生徒に配布することで生徒の学習計画を促す。また、それぞれの学年の方策に従って基礎学力の定着を図る。①②③	A	
		授業重視を徹底させる。日常の自己学習を徹底させる。①	A	
		授業中心の学習計画を立てさせ、「予習→授業→復習」の学習習慣を確立させる。①②③	B	
		科目担当者の連携を密にし、授業の進度や定着度合いの確認・分析を行い、学習指導に生かす。①②	A	
	基本事項の理解を徹底させると共に、問題演習を十分に行う。①	B		
	授業内容や生徒の習熟度に応じた教材・問題等を協議検討して、その結果を学習指導に生かす。①②	A		
	3学年の生徒には、基本事項を整理し、発展的な応用力の養成と定着に努め、難関大学に合格できるための思考力を養う。②	A		
	進学目標別の対策を研究するためのガイダンスや課外を実施する。②③	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題	
理科	自然に対する関心や探究心を高め、科学的に探究する能力と態度を育てる。	授業展開の中で、生徒の興味・探究心を喚起する実験・観察教材の研究と工夫に努める。あわせて、発展的な内容や話題について提供する。①②③	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の習熟度に応じた課題の提供や学習活動の工夫改善が課題である。特に、授業理解が困難な生徒に対する支援のあり方について検討していく必要がある。</li> <li>また、科学の甲子園、科学オリンピック等に出場する生徒に対しての理科としての指導内容、方法の検討が課題である。</li> </ul>
		単元毎の観察・実験を行い、観察・実験に積極的に取り組ませ、現象を見る目や探究心を養う。また、その内容のまとめ、考察、発表を通して学力の定着を図るとともに科学的能力を養う。外部講師による「科学実験講座」を実施し、発展的な内容に触れさせることで科学的探求心を育てる。①②	A		
	自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な自然観を育成する。	授業で履修する事柄が自然や生活の中の仕組みにどのように関わっているかを取り上げることにより科学を学ぶ楽しみや科学的な姿勢を育む。②	A		
	基礎学力を充実させ、3年においては、特に生徒の進路を考慮して応用力の養成を図る。	授業内容や生徒の習熟度に応じた教材・問題等を協議検討して、その結果を学習指導に生かす。演習問題等を精選し、授業や添削指導などを通して、基礎学力を確実につける指導を行う。②③	B		
保健体育	運動や学習を通して、協調性を高め、仲間との関わりの中でそれぞれの力を伸ばす意識を持たせるように指導する。	3学年の生徒には、基礎学力定着の確認を行うとともに、発展的な応用力の養成と定着に努め、良質な演習問題や試験問題の作問に努め、高いレベルの学力や思考力を育成し、最難関大学の受験へ対応できるようにする。②③	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団の特性に応じて、工夫しながらゲームを行える能力を養う指導を継続したい。また、自ら率先して用具管理や安全への配慮ができる態度の育成については、指導の工夫を行う。</li> <li>短時間で実戦できるスキル向上ドリルの開発、工夫を継続して行う。</li> <li>単位減の2年体育については、ひとつの単元を長く設定することで技能の定着をはかりたい。</li> <li>保健の課題学習について、更に高度な内容を目指した指導方法の改善を図る。</li> <li>体育的行事における生徒支援を積極的に行う。</li> <li>事故を未然に防ぐため、生徒観察を徹底する。</li> </ul>
		集団種目を多く取り入れることにより、仲間と協力して活動することの大切さを指導する。①②③④⑦	A		
		集団の特性に応じた、ゲームの工夫ができる能力や態度を育成する。①②③④⑦	B		
		準備や片付けを率先して行う態度を養い、集団に寄与する精神を育てる。③④⑦⑧	B		
		1学年の保健においては、自分の身体への理解を深めて命の大切さに気づき、自己愛や他者への思いやりの心が育つように指導する。①②③④⑦⑧	A		
		2学年の保健においてはグループ研究、発表を実施し、共同で学習する事によって仲間意識や責任感を持たせるよう指導する。①②③④⑦⑧	A		
	運動を通して、困難なことにも立ち向かう態度や能力を育成する。	克服的な種目を実施することで、チャレンジ精神を養い、達成感を味わわせる。①②③④⑦⑧	A		
		苦手なことにも取り組みやすいように、関心・意欲・態度の評価を重視する。③	B		
		準備体操とともに、体力向上のための運動を積極的に取り入れる。①②③⑦	A		
	体育的行事を推進する。	個人スキル向上のためのドリルを工夫し、よりよいゲーム運営につなげる。②③	A		
		スキー教室での経験が生涯スポーツへと発展させられるように、安全で楽しい行事を計画、実施する。②③④⑦⑧	A		
		新体力テストを通して自己の体力を客観的に評価し、日頃から健康への意識を高められるような態度を育成する。②④⑦⑧	A		
一高オリンピックの計画、実施を生徒が主体的に行えるよう支援し、行事運営の能力を育成する。②③④⑦⑧		A			
運動・スポーツ活動における安全指導を充実させる。	運動部員が、クラスや行事においてもリーダーシップを発揮できるように、指導育成する。②③④⑦⑧	A			
	活動中の健康観察を徹底する。③	A			
	周囲の者の健康状態を観察したり、危険を察知する能力や態度を育成する。③④⑦	B			
芸術	健康、安全に関する自己管理能力を育成する。②③④⑦⑧	B			
	多様な表現活動を通して芸術表現・鑑賞の楽しさを味わわせ、芸術を愛好する心情を育てる。	生徒一人一人の感性に沿った個別指導を充実させる①②	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>互評会のやり方を工夫し鑑賞指導の更なる充実をはかる。表現や鑑賞教材の精選し更に充実させ、複数のジャンルを跨ぐ鑑賞指導を工夫する。</li> </ul>
	指導計画に基づき、授業内容及び指導方法を創意工夫する。②③	B			
・自ら工夫した表現活動や相互鑑賞などにより音楽の諸能力の向上を図る。 ・相互鑑賞、発表によって鑑賞者に制作意図を理解させ、発表能力及と鑑賞能力の向上を図る。①②	A				
家庭	生活課題を解決するために必要な知識と技術を習得し、家庭生活の充実向上をはかる力と実践的な態度を育成する。	各分野の授業において、生徒が興味・関心を持ち取り組む実習を研究し、関連した発展的な知識・内容についても提供する。①③	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>検定試験などを効果的に取り入れ、知識と技術の向上を行う。</li> <li>指導と評価の方法をより研究する。</li> </ul>
		学習した知識や技術を活かし、家庭生活における課題を主体的に解決する態度を育成する。①②	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
国際	情報モラルについて学び、情報社会の持つ諸問題について考える。	現代社会における情報の重要性を知り、情報化の進展に対応できる能力を育成する。 ②	A	A ・1年生4月～9月までは情報社会の諸問題の学習を強化し、フィールドワークの基礎を学ばせる。10月以降は実際のフィールドワークを通じ地元の課題に気づかせる。 ・2年生は海外でのフィールドワークを通じて、各自の課題学習を深化させる。
		情報リテラシーについて学ばせ、情報通信手段を積極的に活用できるようにする。 ①②	A	
		インターネット、携帯電話等通信機器の便利さの裏側にある危険について知り、安全な利用について考えさせる。 ②	A	
	基本的な情報機器が活用できるようにする。	ワープロ、表計算ソフト、パワーポイントを活用できるようにする。 ②	A	
		よりわかりやすい文書作成、図やグラフの作成を通して、情報伝達の力を育成する。 ①②	A	
		グローバルキャリアデザインとしての指導を進める。	③	
グローバルキャリアデザインとしての指導を進める。	筑波大学をはじめ外部との連携協力を進める。 ②	A		
	生物資源に対して興味関心を持たせ、課題研究に取り組ませる。 ①②	B		
英語	英語科全体の目標 分かりやすい授業を展開し、実践的コミュニケーション能力を養う。	全体		A ・1年 自ら率先して学習に取り組む姿勢を確立させる。特に家庭学習を充実させる。 ・2年 学習意欲が低下している生徒に対し声掛け・面談等の対策を早期に行う。 ・3年 生徒の進路実現のため、学習会等を行い問題の共有を図る。また、外部の研修会等へは積極的に出かけ情報収集と自己研鑽に努める。
		・教材研究を深めて、生徒の知的好奇心を刺激し、充実感のある、分かりやすい授業を展開する。 ①	A	
		・英語を通し、将来国際社会で活躍する日本人として必要となる、国内外の文化・社会の諸側面についての理解を深められるように題材の扱い方を工夫する。 ①	A	
	・読む、聞く、書く、話すの4技能をバランスよく伸長できるような授業を展開する。 ①②③	A		
	第1学年の目標 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、英語の確かな基礎力を養う。	第1学年の具体的方策		
		・授業を中心に予習復習の徹底を図り、自立した学習の援助をする。 ①	A	
		・語彙力を向上させるテストを学年を通して実施する。 ①	B	
		・英語に親しめるサイドリーダーを選択・活用して、読解力の基礎の育成を図る。 ①②	A	
		・辞書指導の充実等によって、自立した学習力の育成を図る。 ①②	A	
	第2学年の目標 第1学年で培った英語の基礎力をさらに伸長させ、確かな英語力を養う。	第2学年の具体的方策		
		・授業内にディベート的要素を取り入れ、実践的コミュニケーション能力の向上を図る。 ①②③	B	
		・第1学年で培った生徒の英語力を踏まえて、一人一人の生徒の学力を伸ばす授業を展開する。 ①②	A	
		・権文力を確かなものにするテストを継続実施する。 ①	A	
		・正確でまとまりのある英文が書ける力を養えるような授業を展開する。 ①	A	
	第3学年の目標 生徒の進路希望実現のために、難関大学入試に対応できる確かな実践力を養う。	第3学年の具体的方策		
		・知的好奇心を刺激するようなサイドリーダーを選択・活用して、読解力の向上を図る。 ①②	A	
		・第1、2学年で培った英語力を踏まえ、生徒の英語力を確かなものにする授業を展開する。 ①②	A	
		・大学入試問題を研究し、生徒の進路希望に即した考查を実施する。 ①②	A	
・国公立大学個別学力試験に対応できるような英文要約や英作文等の指導を充実させる。 ①		A		
	・センター試験で各生徒の進路希望実現に必要な成果が出るように、直前対策を実施する。 ①	A		

5段階評価 A：目標が十分達成された B：ある程度の成果が見られた C：取り組んだ D：取り組んだが課題を残した E：取り組まなかった